

# 長期戦略:テーマ 「研究ブランドの確立」

提出日 2021年 8月 25日

担当部署
------

## II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	長峯研究推進社会連携機構長 (研究推進社会連携機構)	実施計画の 担当部署	研究推進社会連携機構 (広報室)
-----------------------	-------------------------------	---------------	---------------------

### 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
3-(2)-④ 恒常的な発信を可能とする研究広報体制の構築	2019年度	2024年度	必要なし	不要
<b>内容</b> 研究広報体制の整備により本学の研究成果を広く社会に発信することで、他研究機関との共同研究の充実や、進学希望者、特に大学院進学希望者に選ばれることによる若手研究者の育成、ひいては新たな研究成果の創出による研究機関としてのブランド力向上に貢献することを目的とする。 <b>【研究活動情報の発信】</b> 学内研究者は研究活動情報発信システムによって、自ら研究活動情報を発信し、学外者(学生・保証人・マスコミ等を含む)は研究活動情報発信サイトで最新の研究活動について知ることができる。 <b>【研究業績情報等の発信】</b> 学内研究者は研究者データベースに研究概要や研究業績を登録し、学外者は研究者データベースから本学研究者の情報(プロフィール・業績情報)へ容易にアクセスができる。				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	研究活動情報の月平均発信数	研究活動情報の月平均の投稿数		
指標2	研究活動情報発信サイトのページビュー数	月平均 5,000 ページビューを目指す		
指標3	研究者データベースの研究業績更新率	研究者データベースの研究業績を最低年に1回更新した研究者の割合		

## 目標1&lt;指標1&gt;研究活動情報の月平均発信数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	10件	20件	25件	30件	30件以上	30件以上
実績	5.6件	2.3件				

## 目標2&lt;指標2&gt;研究活動情報発信サイトのページビュー

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	1,000/月	2,000/月	3,000/月	2027年度に5,000/月を目指す	2027年度に5,000/月を目指す	2027年度に5,000/月を目指す
実績	2,120/月	1,237/月				

## 目標3&lt;指標3&gt;研究者データベースの研究業績更新率

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	50%	60%	70%	70%以上を維持	70%以上を維持	70%以上を維持
実績	41%	53%				

## 2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
研究活動情報の発信	策定段階	システム構築・運用開始 情報発信開始	システム運用・改善 情報発信 運用ルール等改善	システム運用・改善 情報発信 運用ルール等改善	システム運用・改善 情報発信 運用ルール等改善	システム運用・改善 情報発信 運用ルール等改善
	2022 年 3 月 末段階	—	—	—	—	—
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	システム運用・改善 情報発信 運用ルール等改善	システム運用・改善 情報発信 運用ルール等改善	システム運用・改善 情報発信 運用ルール等改善	システム運用・改善 情報発信 運用ルール等改善	
	2022 年 3 月 末段階	—				
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
研究業績情報等の発信	策定段階	システム改修・運用	システム運用・改善	システム運用・改善	システム運用・改善	システム運用・改善
	2022 年 3 月 末段階	—	—	—	—	—
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	システム運用・改善	システム運用・改善	システム運用・改善	システム運用・改善	
	2022 年 3 月 末段階	—				

## 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度	2024年度	左記以降
非公開							

## 4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	研究者活動情報発信システムの運用を開始し、研究者が研究情報を広報できる環境を整備した。また、各種学内助成制度とも連携し、同システムによる研究成果報告の仕組みについても構築した。
2020 年度	システムによる研究成果報告の仕組み等の構築は完了したものの、運用段階に入った今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて国際的な研究活動を中心に全般的に研究活動が低迷した。その結果、情報発信件数をはじめ各目標指標を大きく下回ることとなり、利用度向上に向けた改善策および研究成果の一般社会への広報展開の仕組みの確立について検討することとなった。
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

## 5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	ロードマップに則り、システムの運用を開始し、利用率の向上に向けての取り組みを進めている。今後は利用率の向上を図りながら、運用ルール等の改善について検討する。
2020 年度	ロードマップに則り、利用者への周知や研究情報発信への誘導を含めて運用ルール等の改善について検討・実施し、更なる利用率の改善、向上につなげていく。
2021 年度	フェーズ 1 の Total Review 記載のとおり、フェーズ 2 に向けて、研究広報 WG とも連携して、システム利用度向上に向けた改善策および研究成果の一般社会への広報展開の仕組みの確立について検討していく。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	研究者データベースのメンテナンス及び研究活動情報発信システムの導入を認めます。但し、研究者が、使いやすいシステム構成にするとともに、積極的に情報発信するような施策を検討してください。なお、2021 年度時点で指標による検証を行い、継続可否を判断します。いずれも、2019 年度は間接経費より捻出してください。2020 年度以降は、毎年の執行状況等を確認し判断します。また、上記システムの運用を担当する派遣職員 1 名については、保留とします。業務移管等に伴う業務量の増加も併せて、人事部にて判断いたします。加えて、研究広報機能強化のための嘱託職員 1 名について、8-(11)-①に含めて判断いたします。
2019 年度	研究者データベースのメンテナンス及び研究活動情報発信システムの導入を認めます。引き続き、研究者が使いやすいシステム構成にするとともに、積極的に情報発信するような施策を検討してください。なお、2021 年度時点で指標による検証を行い、継続可否を判断します。いずれも、2020 年度は間接経費より捻出してください。2021 年度以降は、毎年の執行状況等を確認し判断します。
2020 年度	研究者データベースのメンテナンス及び研究活動情報発信システムの導入を認めます。引き続き、研究者が使いやすいシステム構成にするとともに、積極的に情報発信するような施策を検討してください。なお、2021 年度時点で、研究活動情報の月平均発信数、研究活動情報発信サイトのページビュー等、指標による検証を行い、継続可否を判断します。いずれも、間接経費より捻出してください。
2021 年度	研究者データベースのメンテナンス及び研究活動情報発信システム活用の継続を認めます。引き続き、研究者が使いやすいシステム構成にするとともに、積極的に情報発信するような施策を検討してください。いずれも、間接経費より捻出してください。
2022 年度	
2023 年度	

## 7. Total Review の結果

## 【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究活動情報発信システムを構築し、研究者が自由に登録・発信できる環境を整えた。利用度を高めるための方策を検討する必要がある。</li> <li>研究活動情報発信システムに登録された研究成果等を、一般社会へ展開していく仕組みの確立が必要である。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">継続</p> <p style="text-align: center;">・</p> <p style="text-align: center;">廃止</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究者データベースの更新率の向上</li> <li>研究活動情報発信システムの利用度の向上</li> <li><u>研究成果を一般社会へ広報展開する仕組みの確立</u></li> </ul>

## 【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	